

○ 各グループからの主な意見

学力・学習意欲の向上

- 山間部の学校では生徒数減少により、近い将来、複式学級とせざるを得ない。しかし、子どもたちの「学びの自立」の機会とプラスに捉えて、アクティブ・ラーニングの導入やICT教育の活用など新しい複式学級における授業研究を進めている。
- 学力調査の結果を現場の管理職だけでなく、教職員自身が分析をして、課題意識をもって、子どもの学力向上のために取り組んでいかなければならないと考える。
- 授業の中に話し合い活動や発表活動などをどのように位置付けていくのか、授業の構成方法についても研究していかなければならない。
- 地域の人材をもっと活用していくべき。町の職員、図書館の職員が、小学校に行って「読み聞かせや図書の整理をして子どもの学習活動を支える」という実践は学校にとってもプラスになっている。
- 子どもの関心・意欲を高めるために、少子化の進む村部では少人数のメリットをいかして、子どもたち全員を海外留学に派遣していく取組も考えられる。
- 地域のボランティアを活用し、公営塾を設置するなど、公的に子どもたちの学力をサポートする仕組みをつくっていく必要がある。
- 授業のはじめに「ねらい」を明らかにし、終わりには「振り返り」をする。子どもたちに目的意識をもたせて学習に取り組ませるといった基本を見直すべき。
- 子どもたちが将来への夢・希望をもつことにより、学習意欲を向上させることができる。そのためにはキャリア教育の充実を図る必要がある。

家庭教育・地域の教育力向上

- 挨拶運動など、地域との関わりを通じて子どもたちに規範意識の醸成を図っていくといった、地域と家庭と学校が連携した取組をさらに進めていく必要がある。
- 教職員に地域の行事やお祭りに参加してもらい、地域との交流を深め、教職員も親も地域の方々も「子どもたちは自分たちが育てていかなければならない。」という気持ちを共有していく必要がある。

教員の資質向上

- 子どもたちの学習意欲を高めるには、教職員が一方向的に教える授業ではなく、子どもたちが質問し、自主的に学ぶことができる授業をしていくべきである。そのために、アクティブ・ラーニングを取り入れるための研修が必要である。また、そのような授業を実践している教職員を評価していくことも考えていくべき。
- 落ちついた教育環境を確保するために、市教委の指導主事や退職校長による個別の訪問研修を実施し、初任者を含めた教職員の指導力の強化を図ってはどうか。
- 教科指導だけではなく、児童生徒理解・学級経営力など「教師力」を高める研修の機会が必要である。
- 教職員の資質向上に関しては、夏季休暇等を利用し、特にコンピュータの活用の研

修をしている。

- 高校の教職員の専門性を中学校や小学校の教職員へつないでいくことが大切になってくる。
- 若い教職員を育てるためには、ベテランの教職員のサポートが必要。そのための時間を確保できるシステムが必要である。
- 学力・学習状況調査の結果を受けて、教職員が授業改善に取り組んだこと、教材を探したこと、教職員が創意工夫したことを持ち寄って自主的に研修するといった取組も行われている。
- 教職員のモチベーションを高めることが教育委員会に課せられた課題と考えている。

その他

- 教職員が子どもたちの教育に集中できる環境を整えるのは、行政と教育委員会の役割と考える。
- 教職員が子どもに声かけすることが大事。このことが子どもの自尊感情を育むことに大きな影響を与えると考える。
- 県は福井県に指導主事を派遣されたが、学力の高い県と奈良県の違いについての情報を提供いただきたい。
- 二学期制や夏休みの繰り上げにより授業時間を増やしている地域もあるが、授業時間数と学力の関係などの情報があれば提供いただきたい。
- 教職員が大変多忙な中で、教材研究を十分にできる状況にあるのかという点を教育委員会が点検していかねばならない。
- 学校間の取組の差は、校長がどのように目標設定をしているのか、それをどれだけ教職員に伝えているのか、ということに関係してくる。
- 学校内のことは教職員目線ではなく、子ども目線で考えていくべきであるということを経済教育会議で提案していきたい。

<総括>

- 福井県では学力向上・体力向上に対する教職員の意識が違う。その意識を学校全体のエネルギーに変えている。教育は心意気。心意気は校長から教職員、教職員から子どもたちに伝わっていく。
- 学力調査の結果において差が出ている原因について、現場の教職員による分析に取り組んでいただきたい。どうしてこんな差があるのかということを経済教育会議に考えさせて欲しい。
- 教職員には子どもたちに問いを発生させるような授業を展開してほしい。
- 学習意欲を高める授業を研究し、教職員の研修プログラムを作っていきたい。
- 今日の授業で何を教えるかという目標設定、あるいはこの1年で何を向上させるかという目標設定が重要。ぜひ、教職員の目標設定、学校の目標設定をお願いしたい。
- 学力の高い秋田県と奈良県との違いを把握してほしい。
- いじめをなくすためにアンガーマネジメントを教職員の研修に取り入れられないのかを考えていく。